

平成 26 年 5 月 24 日
NPO 法人犬と猫のためのライフポート
理事長 稲葉友治

2014 年度事業計画

【事業計画策定にあたって】

ライフポートは13年前の活動開始以来、多くの方のご支援を受けながら活動して参りました。創業当時には存在しなかったボランティア譲渡制度は、今では全国の自治体に広がり、多くの団体・個人が命を助けています。譲渡活動が「常識」となった今、ライフポートはベンチャー精神をもう一度思い出し、今は非常識でも10年後には常識になる活動に着手したいと考えています。

今後着手すべき活動を模索するために10年後の動物をとりまく未来像を作成しました。
※付録『2024年の未来像』

この未来像は多くの可能性の中から一面を切り取ったものに過ぎませんし、あえて極端な例も書いているので現実味がないかもしれません。10年では時間が足りないのかもしれない。

しかし、動物たちを助けたいという人がいる限り、いずれこうした時代が来ることは、実は考えるまでもなく当たり前のことだと認識しています。愛護団体・活動家全体の役割は、こうした未来に到達するまでの時間をいかに短くするか、ライフポートとしては団体の強みとノウハウを活かし、いかにそこに貢献するかが大切と考えています。

【活動の二つの柱】

<シェルターからティアハイムへ>

そもそも両者は英語とドイツ語で言語が違うので、語感の問題になってしまいますが、要は(日本人にとって)緊急避難先というイメージの「シェルター」から、動物の保護・飼育・生涯までをトータルにケアする「ティアハイム」への転換が必要と考えています。前記のとおり、社会環境は確実に変わりつつあり、また変えていかななくてはなりません。この変化を促進するため、「シェルターからティアハイムへ」という大目標を掲げ、そこに必要な仕組・ノウハウ等を構築することができる事業に着手します。

着手すべき事業は多岐にわたり、今後さらに具体化して参りますが、主要なものを提示します。

◆終生飼育ノウハウの構築

どうしても一定の確率で譲渡困難な動物が発生しますので、積極的に犬猫を保護しようとするほど、終生飼育の動物も増えていきます。

また人も動物も高齢化する社会では、今後飼育放棄される高齢動物が増えることが予想されます。

こうした状況に備え、より多くの動物を幸せにするため、まずは現施設における必要十分な飼育環境の構築を目指します。

◆第2LBJ 附属動物病院の設立

ティアハイムにおける医療面での重要事項は二つと考えています。

すなわち、より多くの動物を保護した状況での集団飼育管理と、譲渡困難動物・飼育放棄動物などの終生飼育・介護です。

こうした未来に備えるための動物病院設立を目指します。

この病院では下記のようなことを行いたいと考えています。

1. 集団飼育下における医療プログラムを最適化し、ノウハウとして構築すること。
2. ティアハイムにおける老犬老猫の必要十分な終末医療を模索すること。

◆統計データの蓄積および公開

ライフポートは1万頭を超す子犬子猫の飼育を行ってきたことから、豊富なノウハウを抱えています。しかし残念ながら系統化されておらず、今すぐ公開できる形にはなっていません。

これは非常にもったいないことだと思っています。

例えば、医薬品の効能、保護した犬猫の寿命、猫がエイズを持っている確率、里親が将来飼育放棄してしまう確率、飼育に必要な労働力など、ティアハイムを運営しようと思えば、経営面でも、何より動物のためにも役立つ情報が眠っています。

こうした情報を蓄積し、広く公開することも、多くの方のご支援で成り立ってきライフポートの役割だと思っています。

◆シェルター完成へのプロジェクト実施

多くの方のご支援をいただいた新シェルターを完成させられないままでは、上記のようなことが夢物語と思われても仕方ありません。移転は大きなノウハウになりますので、今後活動をしたい方の参考にもなる形での完成を目指します。

◆人材募集

上記のようなことは、これまでの活動の延長だけではできないことも含まれます。
先入観なしに新規事業にチャレンジするため、新規事業・テーマごとに新しい人材を募集します。

<3000 頭譲渡体制の構築>

譲渡事業はティアハイムの一機能に過ぎません。
しかし、何より動物が一番幸せになる方法であることや、当団体の主要事業であることから、単独のテーマとして一層の拡大を目指します。
なお、「3000 頭体制＝現状の 2 倍に拡大」という大きな発想で活動して参りますが、単年度目標としては 2000 頭譲渡を目標とします。

◆猫管理の2チーム制導入

2013 年度は猫の飼育管理効率は良くなったものの、譲渡につなげることができませんでした。
面会数は増えていましたので、飼いたい人がいるときにもっと多くの猫を保護していれば譲渡(＝救命)のチャンスをもっと増やせたと考えています。

当団体では猫管理部門1チーム(常勤7名、アルバイト3名)で猫の面倒をみていますが、一つのチームが適切に飼育できる猫の数には限界があります。
チームワークの観点からも飼育管理者が1.5倍になれば1.5倍の猫を飼育できるわけではありません。
こうした状況から、管理チームを2つ3つと増やして飼育能力を拡大するノウハウを構築します。

※猫から着手するのは犬より処分数が多く、保護数拡大の余地も大きいからですが、当然犬にも応用できると考えています。

【その他の活動】

<情報発信力の強化>

団体の持つノウハウ・譲渡された犬猫のその後など、「施設からもらう」ことのイメージを良くし、普及させるのにできることはたくさんあります。

救命数増加のための一つのテーマとして情報発信力の強化に努めます。

<理事長による情報発信>

ライフポートは比較的、個人を表に出さずに活動してきた団体です。

しかし、理事長は、ここ数年の自身の経験から、自分自身の考え方を内外問わず多くの人にわかってもらう必要性を痛感しました。

理事長自身の考えを、活動に深い興味を持つ方に伝えることで、人材募集はじめ組織基盤強化の面でも、全国に活動を普及し、より多くの命を数くためにも、大きなメリットになると考えています。

以上が 2014 年度の事業計画です。

今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上